

梅雨の足音が間近に迫ってきましたね。梅雨は私たちにとってはなんとなくジメっとしたイメージで、あまり好まれていないようですが、植物や動物にとっては、まさしく恵みの季節。特に植物は、梅雨を足がかりに劇的に生長します。今回は、そんな植物のみずみずしさを、葉っぱの工作をとおして感じ取ってみましょう。

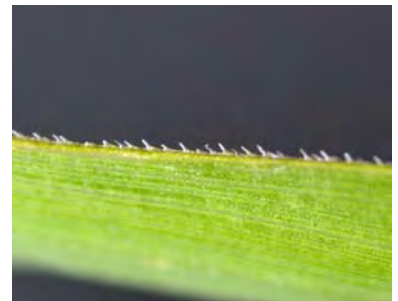
◆笹舟は、なぜササなのか？

はっぱで遊ぶといえば、笹舟です。どこにでも生えているササを使って簡単に作れるし、小川に浮かべて追いかけた思い出



のある方も多いのではないのでしょうか。では、なぜ笹舟は、ササで作るのでしょうか？

その理由はまず、形です。適度に細長い形が、船を作るのにちょうどよいのです。では、細長ければ作れるのでしょうか？答えは、ノーです。折った両端を縦に3本に裂きますが、これができるのは、葉脈の方向が縦に並行に並んでいるからです。また、裂いた部分を両側から入れ込みますが、これがちゃんと止まるのは、葉の縁にならんだギザギザのおかげなのです。こうしてみると、笹舟はなぜササで作るのか、理由がわかりますね。



アズマネザサの葉脈（上）
縁のトゲトゲ（下）

◆いろいろな葉っぱの工作

それぞれの葉の形や性質を利用して、工作をしてみましょう。ただし、工作に使う葉っぱは、植物にとっては大切な光合成の工場です。取っても良い葉っぱかどうか、考えて工作に使わなければいけません。ちなみに、笹舟に使うアズマネザサは、博物館の庭では放っておくと地面を覆いつくしてしまい、ほかの植物を追い出してしまう困った存在です。むしろ、葉をどんどん取ってしまいたい植物です。また、バッタをつくるシュロは、もともとこのあたりにはなかった植物です。これも鳥が果実を食べて、フンに混じった種子からどんどん発芽して、どんどん大きくなります。いくら葉っぱを取っても問題ありません。カタツムリをつくるシヤガも、花はきれいですが、やはりもともと日本には無かった植物ですし、環境が合うとどんどん増えます。これらの葉っぱは、心おきなく使っても構いません。

ただし、取ってもよい場所かどうかは、その植物の葉っぱをとってよいかどうかとは別の話です。博物館の敷地内では、ミニ観察会以外で植物を取ることはご遠慮いただいています。



シュロの葉でつくったバッタ



次回のお知らせ
ミニ観察会：7月7日（土）11時から
新聞 No. 16 も同時に発行します。